

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	リン吸着薬の残薬チェックシートを用いた薬剤師の強化指導による血液透析患者の血清リン濃度の推移及び服薬アドヒアランスへの影響				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	柏倉 康治
	研究分担者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	田中 紫菜子
		所属・職名	やまうち薬局・管理薬剤師	氏名	鈴木 寛
		所属・職名	やまうち薬局・管理薬剤師・代表	氏名	山内 克哉
		所属・職名	かげやま医院・医師	氏名	影山 慎二
	発表者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	柏倉 康治

講演題目	リン吸着薬の残薬チェックシートを用いた薬剤師の服薬指導による血液透析患者の血清リン濃度の推移及び服薬アドヒアランスへの影響
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>血液透析患者の心血管病変の危険因子の1つとして高リン血症である。高リン血症の治療ではリン吸着薬の投与があるが、服用する錠数の多さ、副作用、服薬意義への理解不足といった要因から、患者の服薬アドヒアランスが不良になることがしばしば見受けられる。そこで血液透析患者にリン吸着薬の残薬チェックシートを用いた服薬指導を行い、その後の血清リン濃度の推移及び服薬アドヒアランスの経過を診療録及び薬歴簿から調査することで、薬局薬剤師による血液透析患者への服薬指導の有用性及び血清リン濃度の推移について評価することを目的とした。</p> <p>2018年6月～10月の期間に、泌尿器科かげやま医院（静岡市）を受診後、やまうち薬局（静岡市）に来局した20歳以上の血液透析患者に対し、薬剤師が定期薬交付時に、リン吸着薬の残薬チェックシートを用いたリン吸着薬を服用する目的及び重要性について8週間継続して服薬指導を行った。その期間が終了した後32週までの臨床検査値及び服薬状況を、診療録及び薬歴簿より後方視的に調査した。さらに、本研究開始から0、8、24、40週の時点において、服薬アドヒアランスに関する対面式調査を行った。</p> <p>対象患者数は50名、年齢は65.9 ± 10.5歳（平均 ± 標準偏差）であった。処方されているリン吸着薬の種類に大きな群間差はなく、内訳としては沈降炭酸カルシウムが最も多かった。リン吸着薬に重点をおいた服薬指導開始8週間前（ベースライン期）の血清リン濃度（4回の検査値の平均）に基づき4群（5 mg/dL未満, 5-6 mg/dL未満, 6-7 mg/dL未満, 7 mg/dL以上）に分類したところ、血清リン濃度が高値である患者群（6-7 mg/dL群及び7 mg/dL以上群）の血清リン濃度が有意に低下した。リン吸着薬に重点をおいた服薬指導期間が終了した後、それらの血清リン濃度は徐々に上昇傾向を示したが、血清リン濃度最高値群（7 mg/dL以上）では、リン吸着薬に重点をおいた服薬指導実施前よりも低値で推移した。また、服薬アドヒアランスに関する調査において「薬を飲み忘れたことがある」との質問に対する「はい」と回答した割合が減少した血清リン濃度最高値群（7 mg/dL以上群）の患者では血清リン濃度が大きく低下した。</p> <p>これらの結果から、薬剤師によるリン吸着薬に重点をおいた服薬指導が血液透析患者の血清リン濃度管理に有効であり、特に血清リン濃度の高い患者において、その効果が持続することが明らかになった。ただし、リン吸着薬に重点をおいた服薬指導の効果は介入終了とともに経時的に弱まることも確認され、その指導方法や期間について更なる検討も必要であると考えられた。</p>